

学生の学びを深める学習法の研究

TBL(チーム基盤型学習法)を活用した ビジネス実務教育における学習法

一般財団法人全国大学実務教育協会
平成26年度受託研究報告

平成27年6月14日

日本ビジネス実務学会

九州・沖縄ブロック 九州TBL研究会

■活動の概要①

- 活動目的:

1. Team-Based Learning(TBL)の効果の検証
2. TBLの水平展開の検証

- 研究対象授業:

2014年度前期 第1学年対象「ビジネス実務総論」

- 活動経緯:

2014年3月 有志で会合。研究の枠組み相談。

同年6月 受託研究として承認。

同年4月～8月 筑紫女学園大学短期大学部の授業
参観。ほぼ全員が15回の授業に参加。
授業終了後、ミーティング実施。

■活動の概要②

授業の進め方のポイントを確認・共有。
東筑紫短大・九州共立大で同じ進め方
で授業を実施。結果を共有。

2014年7月

受講生の意識アンケート調査実施。

同年9月

受講生対象グループインタビュー実施。

同年10月～11月

学会員対象のビジネス実務関連授業
の実態調査実施。

同年12月～

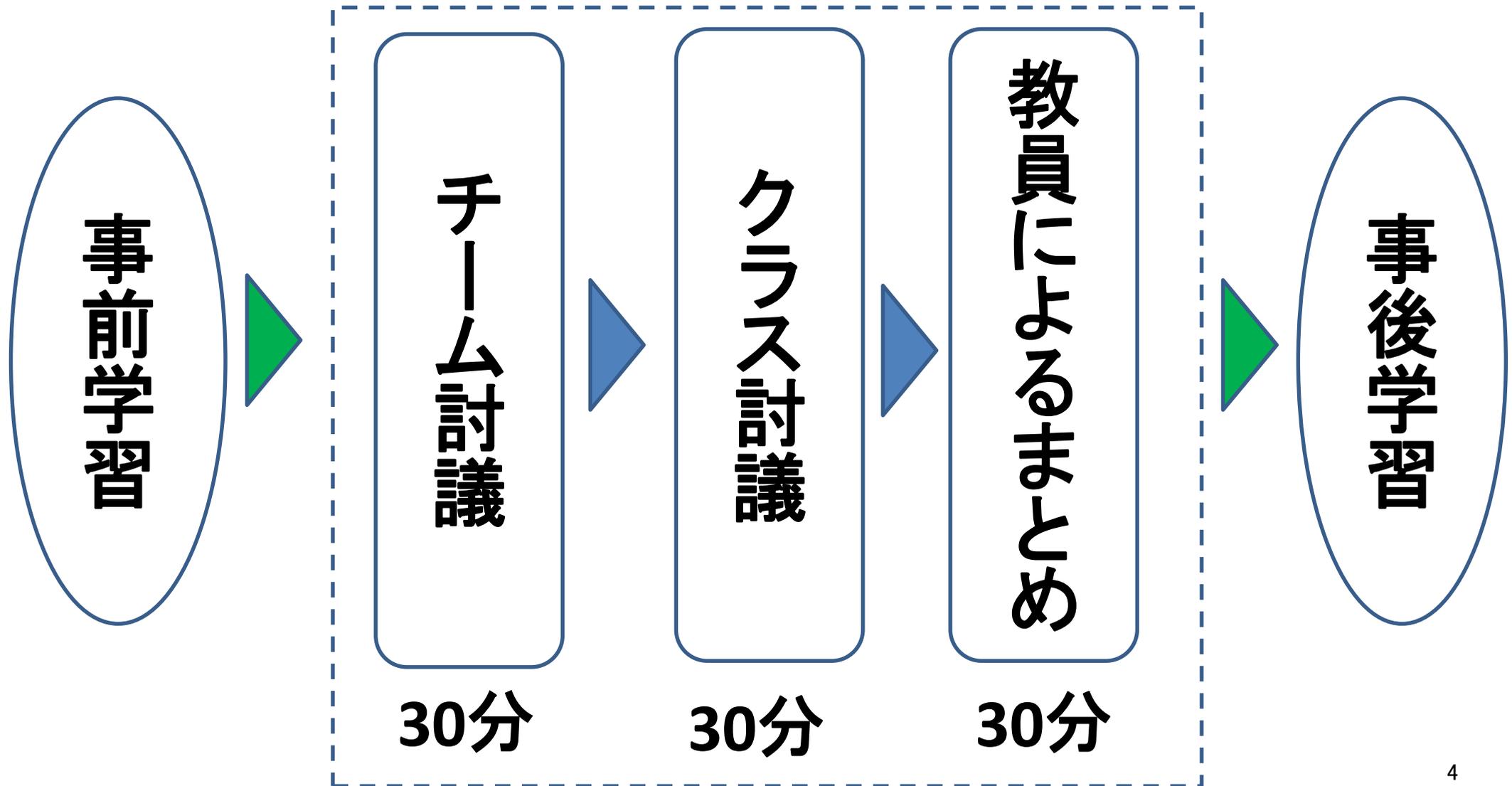
調査結果分析、報告書執筆、作成。

2015年6月

研究報告書提出。

■授業の紹介①授業構造

◆ Team-Based Learning(TBL)による授業



■授業の紹介②シラバスの概要

回数	実施内容・チーム状態	学生の状態
1-4回目	概要説明・チーム 討議を知る	恥ずかしがり、 討議にならず
5-8回目	TBL開始・チーム 討議に慣れる	話合うが、 まだ表面的
9-14回目	本格的にTBL実施・ チーム討議が深まる	クラス討議で も自分から手 を挙げる
15回目	成果をプレゼンテーション	全員実施

■実際の授業

- ▶ チーム討議・・・第4回・第12回
- ▶ クラス討議・・・第13回

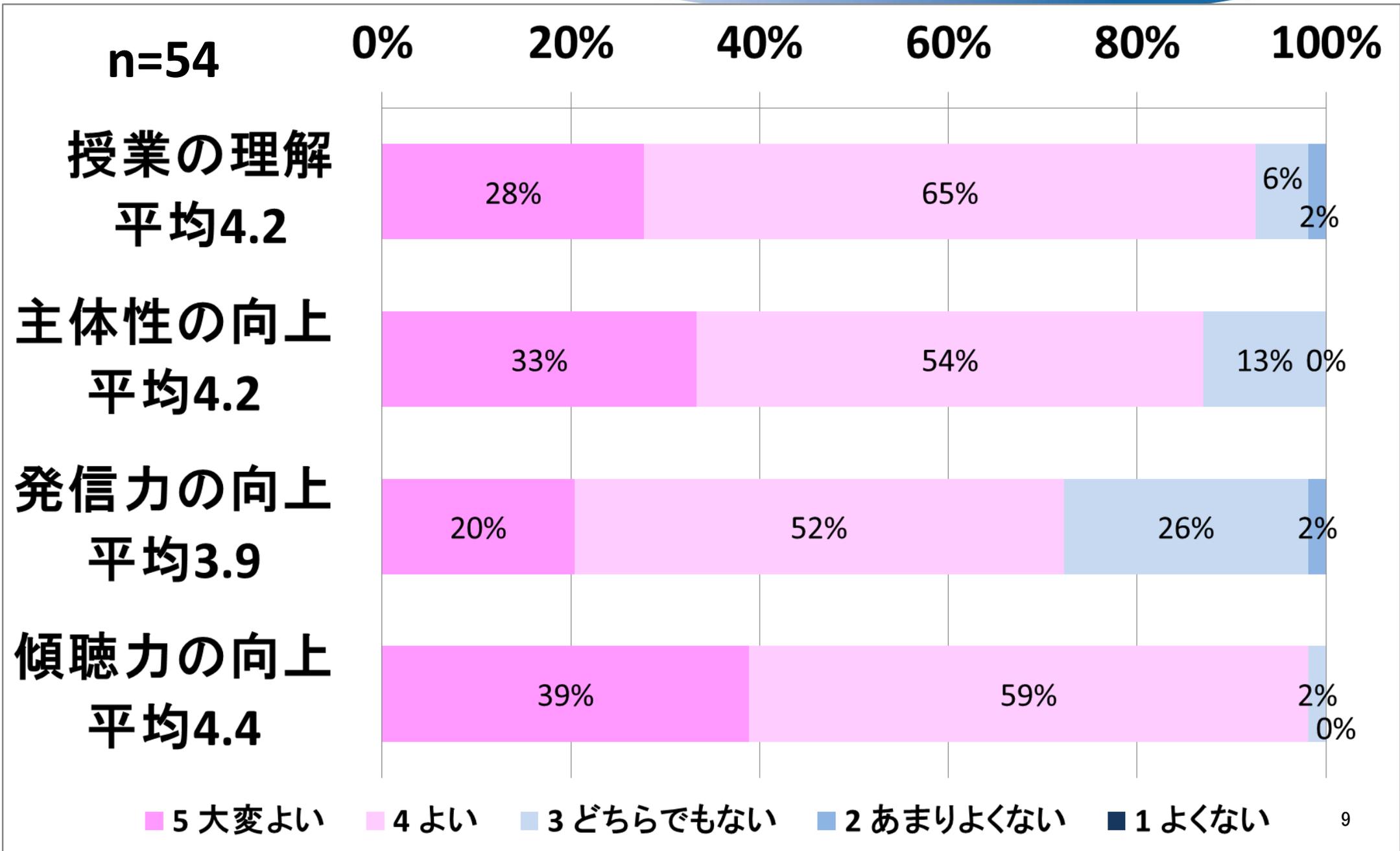
■効果の検証①アンケート調査

- 授業終了時学生の意識をアンケート調査
 - 筑紫女学園大学(21名)、東筑紫短期大学(11名)、九州共立大学(22名)で実施・回収
 - 授業の理解度・主体性/発信力/傾聴力の修得について5段階評価と理由
 - 事前学習・チーム討議・クラス討議・教員によるまとめ・事後学習・レポート/発表の有効性について5段階評価と理由

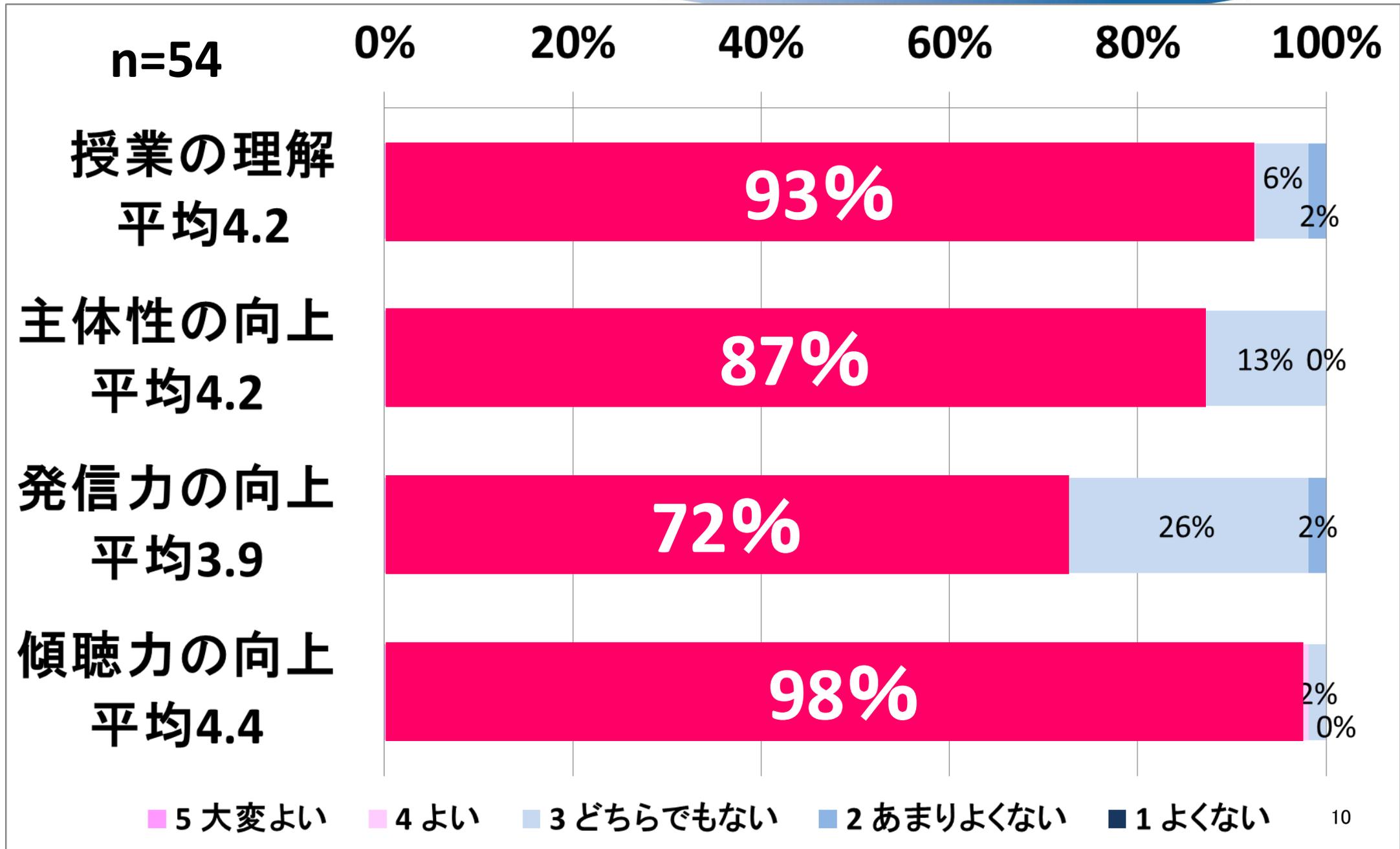
■効果の検証②インタビュー/レポート調査

- 学生の意識をグループインタビューで聞き取り
 - 2014年9月23日 10:30～12:00
 - 筑紫女学園大学の受講生5名
 - アンケート分析から読み取れた結果を聞き取りによって裏付け
- 学生の意識をレポートから読み取り
 - 筑紫女学園大学(23名)、東筑紫短期大学(11名)のレポート

■効果の検証（3大学統合/アンケートより）

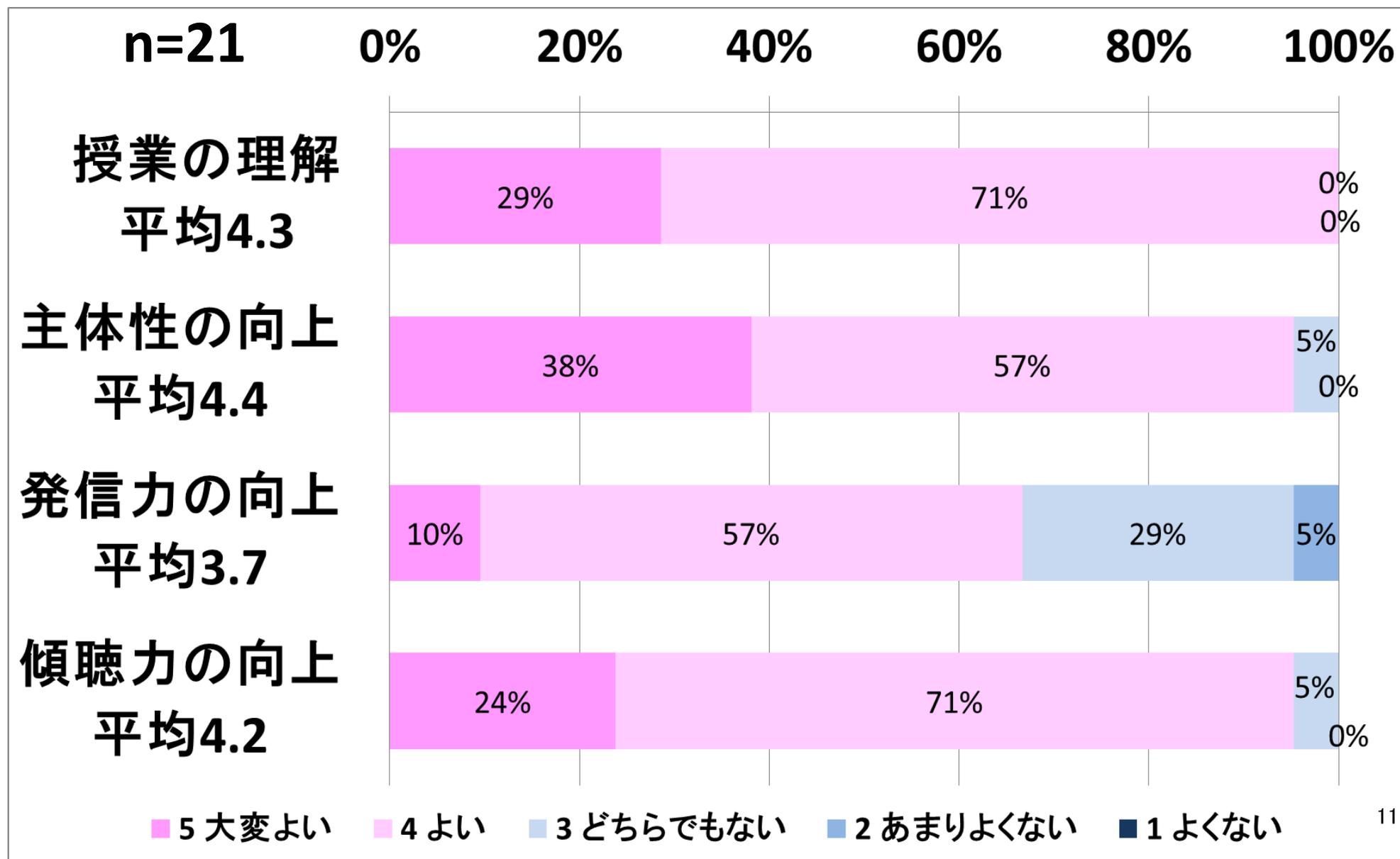


■効果の検証(3大学統合/アンケートより)



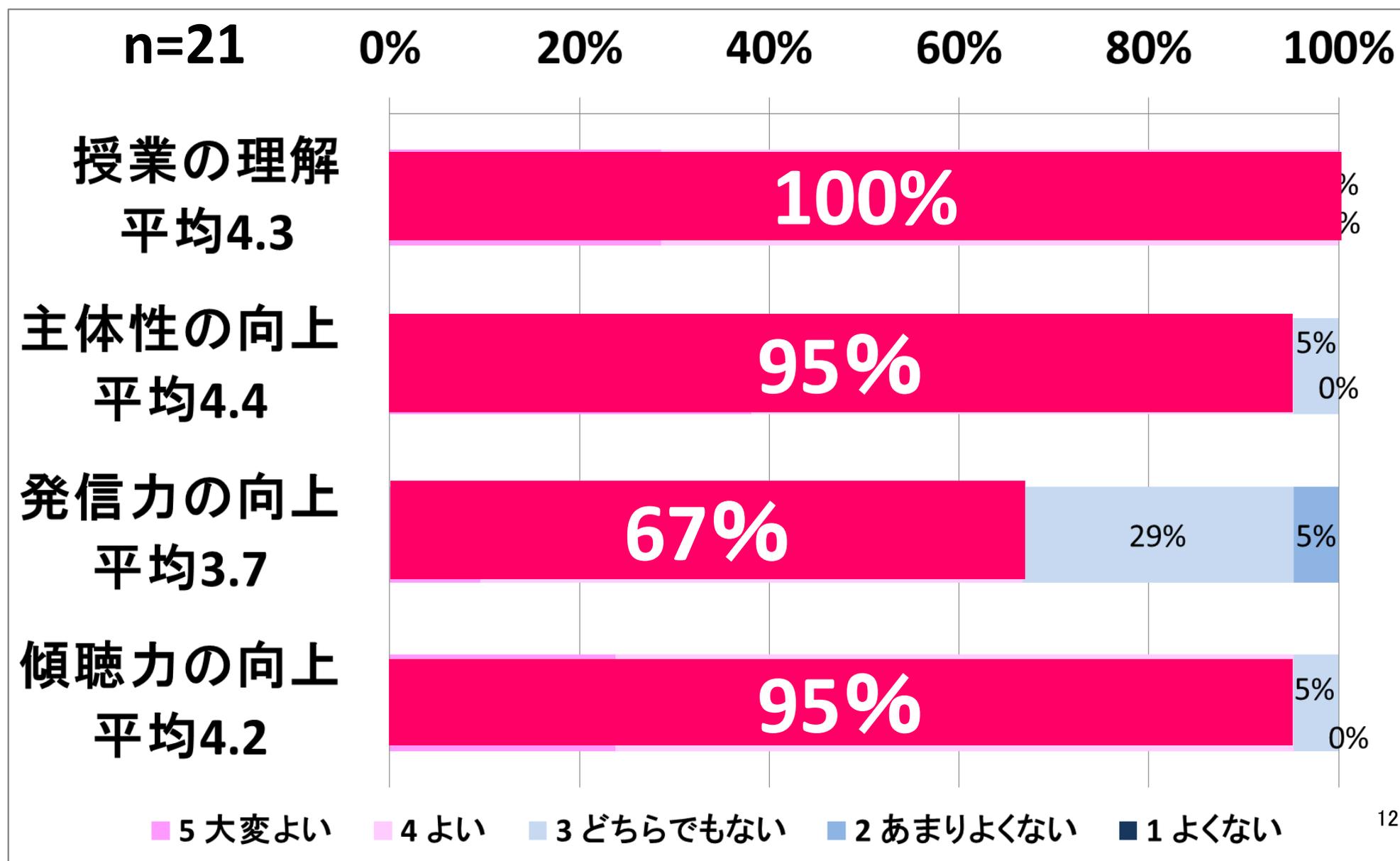
■効果の検証(新たに展開した2大学の状況)

筑紫女学園大学短期大学部



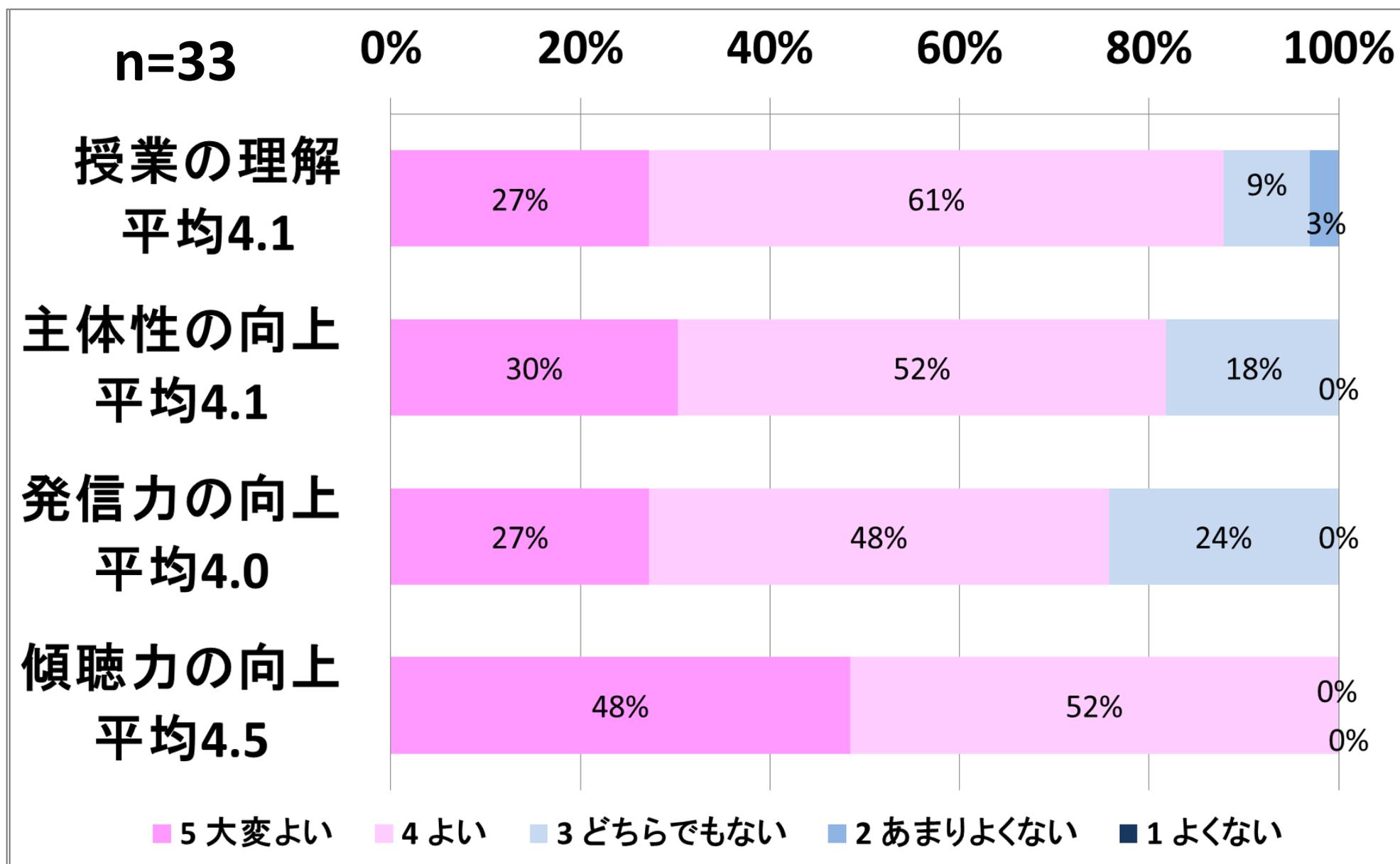
■効果の検証(新たに展開した2大学の状況)

筑紫女学園大学短期大学部



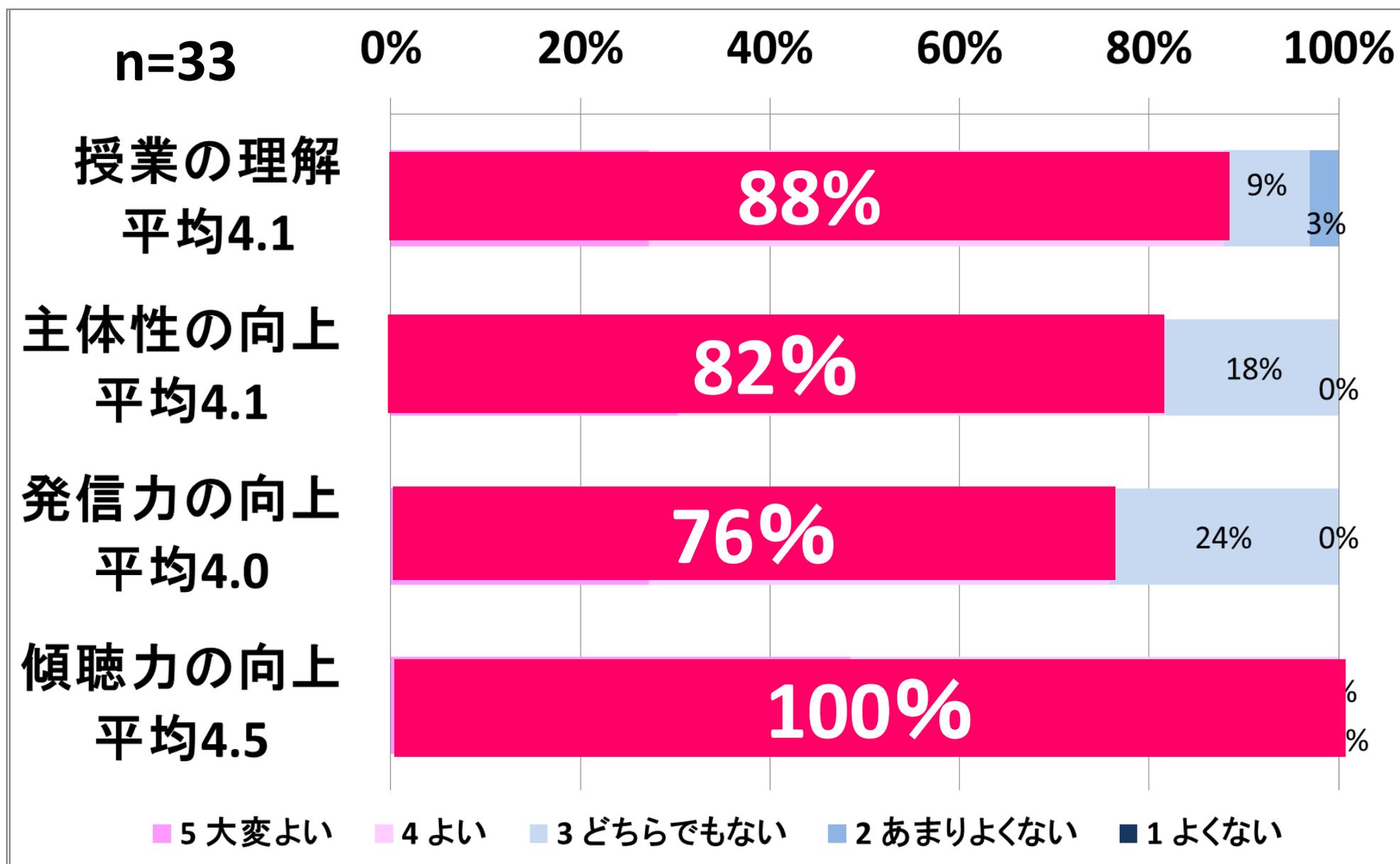
■効果の検証(新たに展開した2大学の状況)

東筑紫短大、九州共立大学



■効果の検証(新たに展開した2大学の状況)

東筑紫短大、九州共立大学



■効果の検証(新たに展開した2大学の状況)

	ポジティブな回答 (評価5と4の合計)		平均	
	筑紫女学園大学 短期大学部 n=21	東筑紫短期大学 九州共立大学 n=33	筑紫女学園大学 短期大学部 n=21	東筑紫短期大学 九州共立大学 n=33
授業の理解	100%	88%	4.3	4.1
主体性の向上	95%	82%	4.4	4.1
発信力の向上	67%	76%	3.7	4.0
傾聴力の向上	95%	100%	4.2	4.5

■ TBLにおける学生の意識変化

- 事前準備をしっかりと行うことで、発言する時の見た目にも大きく影響がでてくると考えました。最初の頃の私は準備不足で内容もわからないままだったので、オドオドしてしまい、プリントを読むので精一杯でした。ですが、今は内容の把握も前よりでき、準備もできるようになったので心の余裕を作れるようになりました。準備万端だと自分に自信もついて、前を向きながら話すことも少しずつできるようになったと思います。
- 今まで高校や中学でもグループになって話し合う授業はあったけれど、みんな参加する気もないし、話し合いになったことはありません。でも、ビジネス実務は毎週毎週やっていくうちに、だんだん自分の考えを持つこともできて、発表して自分の意見を人に伝えられるようになって少しは成長できたと思います。
- チーム討議で固まった意見をクラス討議として話す際、自分たちのチームとはまた違った見解が他のチームから聞けたりしてとても興味深かったです。チームの考えをクラスに投げかけ、そこに生じた疑問点などをまたクラス内で話し合ったり、先生によるまとめで新たな考えへと導いてもらう。そこがクラス討議の醍醐味だと思います。

■ TBL初期段階の学生の意識

人前で話すのは苦手

毎回発表はしんどい、大変そう

発信力の
きっかけ

チェックがあるから、事前学習をやる

とりあえずやってきたので発表する

主体性の
きっかけ

内省

自分とは違う？
なぜ？

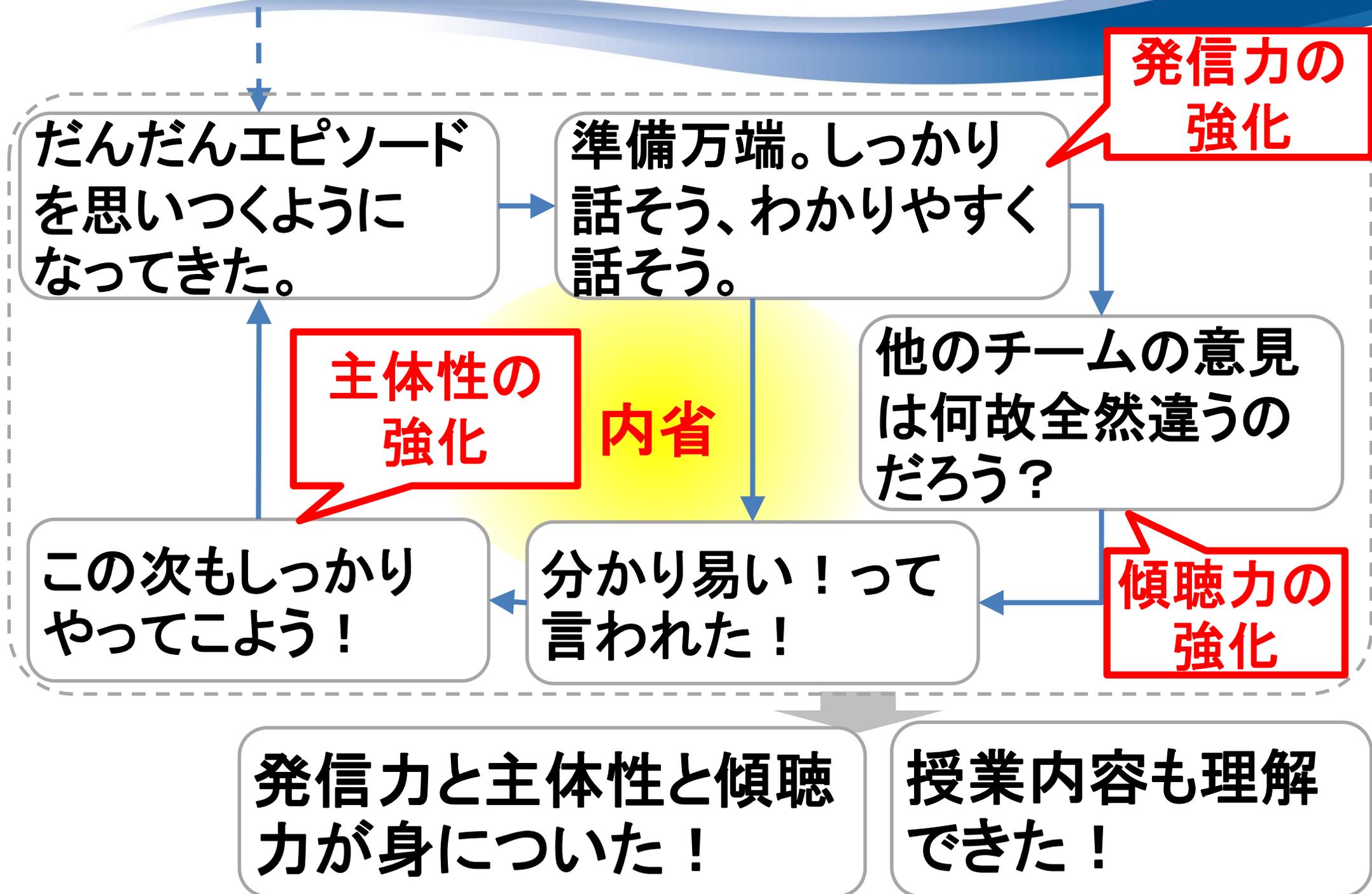
もう少ししっかり
やってこよう。

なるほど。そういう考えもあるのか。面白い

傾聴力の
きっかけ

繰り返すうちに...

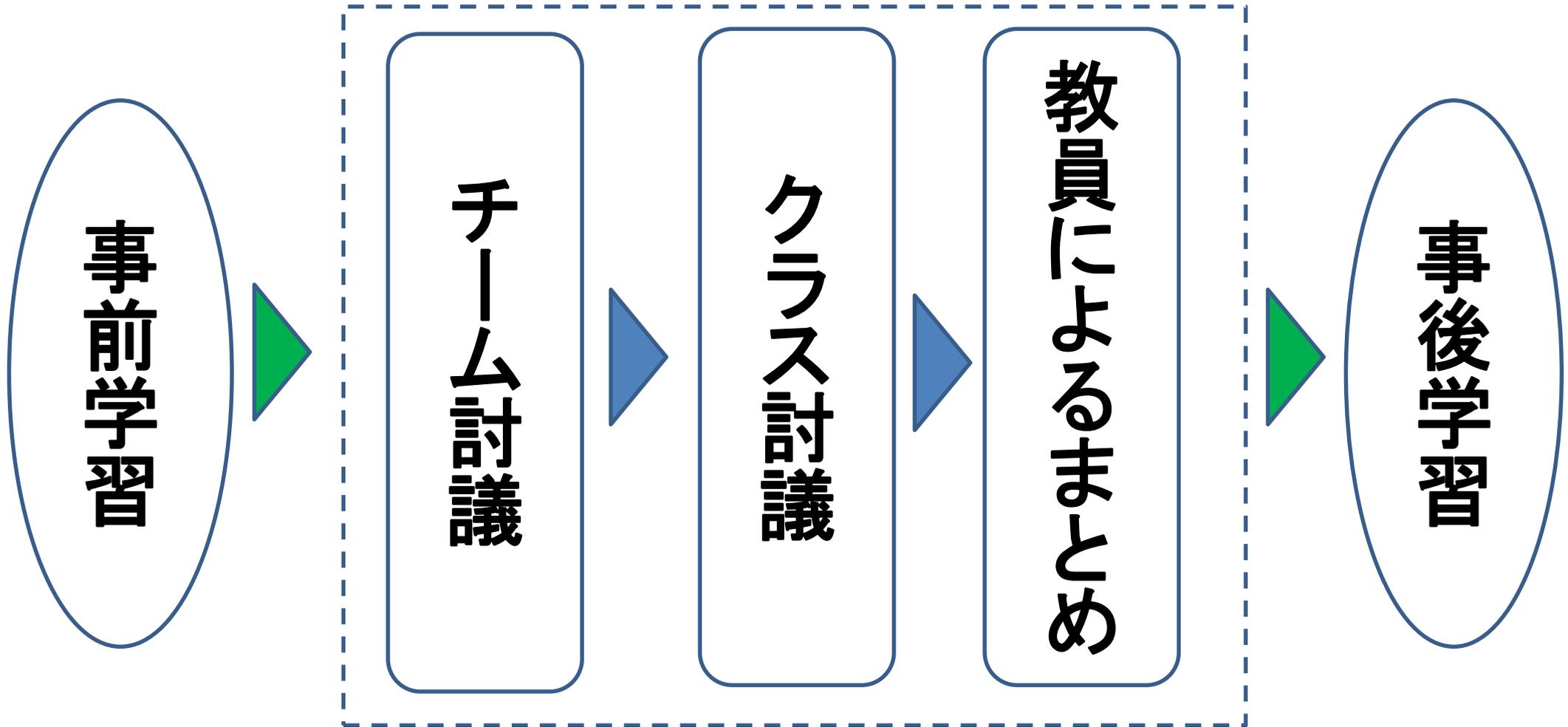
■ TBL中盤・後半段階の学生の意識変化



■ 学生の意識 「内省」が行われている

- チーム発表では話した事のない人達で不安も大きく最初はどうなる事かと思いましたが、とてもタメになるものでした。自分にはない発想や秀でたものなど個人個人でちゃんともっていて、自分を見つめなおすための鏡みたいな物でした。欠点や自分の可能性を知ることができる良い機会でした。
- もっとこんな授業を増やすべきだと思う。自分の生きてきた過去を改めて振り返る機会が多くて、そのとき気づかなかったことや、その経験を通して意味のあったことを考え直すのにとってもいい時間だった。”経験”の意味がとても大きいことがわかった。
- 第7章で学習した「個人の仕事も大事だけどチームで協力することも大事」ということは、このグループで学習することと一緒にだと思いました。1人1人しっかりした意見を持つことも大事だけど、グループで話し合うことによってそれだけ色々な意見があって、そこからまた別の考えが生まれるから、こういう授業も大切なんだと思いました。これから社会人になっても社会で生きていく上でこの授業で学んだことはとても役に立つなと思いました。

■TBLでは「内省」が何度も行われている



■TBLでは「内省」が何度も行われている



■TBLでは「内省」が何度も行われている

テキスト

自分の
意見

深い
チーム
見解

幅広い
意見

自分へ
の問い
かけ

エピソードを想起させる
平易さが重要

内省

内省

自分の
経験

チーム
メンバー
の意見

他の
チーム
見解

教員の
問いかけ

これまで
の全ての
対話

共通の受講ノートを提供
気づき

■「内省」を組み込んだ授業設計

◆能動的学習態度を獲得するには「内省」が鍵となっている

◆アクティブラーニングでは「内省」が促進されるように授業設計をすることが重要なポイント

◆TBLは何度も「内省」を促す授業設計の一例であり、水平展開可能

■是非報告書をご覧ください！

- ◆ **受講ノートの体裁**詳細を掲載（**実際の受講した学生の記述例**つき）
- ◆ 授業のセッションの**マニュアル化**（試み）
- ◆ ルーブリックを応用した学生の**自己アセスメントツール**による**彼我比較**
- ◆ **ビジネス実務関連授業のアクティブラーニング化の実態調査のご報告**
- ◆ TBLの構造と授業成果の相関分析
- ◆ PBLとTBLの体系的な組み合わせの必要性に関する問題提起